

【綾部市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

綾部市では、GIGA スクール構想以前から「あい」のある学習で、「伝えあい」「話しあい」「考えあい」「認めあい」「悩みあい」「まとめあい」「深めあい」「高めあい」「響きあい」「喜びあい」と児童生徒を中心とした「主体的・対話的で深い学び」を進めてきました。

また、GIGA スクール構想を並行して発生した新型コロナウイルスをはじめ、突如発生する大規模災害、技術的な面では、生成 AI の急速な発展など、一寸先の未来ですら予測できない時代になっており、学習指導要領で示される、新しい時代に必要となる資質・能力の育成の重要性がより明らかなものとなっています。

綾部市では、「学校教育の重点」を策定し、以下のような観点で 1 人 1 台端末をはじめとする教育 ICT の活用し、ふるさと「あやべ」を愛し、生きる力を身に付けた子どもの育成を進めていきます。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた非認知能力の育成と ICT の効果的な活用
- (2) 個別最適な学びを進める ICT 活用の充実
- (3) 家庭学習の定着と充実を図るための「8 コマ学習」システムの推進
- (4) 児童生徒が適切に ICT を活用するための情報モラル教育の推進
- (5) ふるさと「あやべ」を愛する心や社会の変化に対応する力をはぐくむ
- (6) 個別最適な学びと協働的な学びにつながる 1 人 1 台端末の効果的・効率的な活用及び教員の ICT 活用指導力の向上
- (7) 情報活用能力の育成、及びプログラミング教育の充実
- (8) P T A や児童会・生徒会活動とも連携した情報モラルの徹底

2. GIGA 第 1 期の総括

綾部市では、GIGA スクール構想の実現に向けて、令和 2 年度に端末、通信ネットワークの整備を行い、令和 3 年度より運用を開始しました。

ソフト面では令和 2 年度から「あい」のある未来の教室推進プロジェクトチームを組織し、教職員向けの研修、活用方法の検討などの準備を進め、運用開始後には実践事例集の作成、新型コロナウイルスの拡大の中での家庭への持ち帰りルールの検討など、学校と足並みを揃えて推進してきました。

活用においては、教職員含め「まずは使ってみる」というところからスタートし、既に「授業を進めるにはなくてはならない」という状態まで定着しました。しかしながら、基本的な操作は定着しているものの、応用的な活用方法の理解、活用頻度は教職員により異なっているという状況は受けられます。活用することではなく、その先にある確かな学力を育成することが目的であるため、手段が目的とならないよう活用する場面の有効性を検証も進めていく必要があります。

児童生徒の基本的な操作技術も定着していますが、主体的に学ぶ道具としての活用頻度は児童生徒によって異なります。また、外国にルーツのある児童生徒、不登校や病気療養など、学力だけではなく、児童生徒 1 人 1 人の異なる背景も留意が必要です。

機器も導入から約 4 年を経過し、バッテリーの劣化等の老朽化が進んでおり、故障対応の件数も年々増えているところです。

3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末の活用と綾部市が積み上げてきた「あい」のある学習を組み合わせ、児童生徒が主役として主体的に考え、児童生徒間で深め、また教職員も児童生徒のサポートをしながら、より良い学びを提供していきます。授業外でも、綾部市が推進する「8 コマ学習」の方法の 1 つとして、家庭への端末持ち帰りも継続して実施していきます。

また、外国にルーツのある児童生徒、不登校や病気療養など、様々な状況にある児童生徒の学びの機会の保証の手段の 1 つとして、児童生徒の状況を判断した上で 1 人 1 台端末の活用を進めていきます。

更に、近年の生成 AI の急速な発展など、技術革新により、今後も様々な新たな活用方法が出てくることが推測されます。先進的な活用事例も参考にしつつ、綾部市のより良い教育のため継続的に教職員研修を企画します。

しかしながら、機器が正常に動作することが大前提となります。1 人 1 台端末の利活用に支障が出ないように、計画的に更新を行います。